

1. 推進協議会事業として今後重点的に取り組む項目

適正なルールの下での質の高いガイドツアーを知床のエコツアーの代表と捉え、ガイドの育成、認証制やガイドライン運用で質の向上、地域ブランドとして発信していくことに重点的に取り組む。

	目的・将来目標	実施状況			実施計画		
		平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
a) 知床エコツーリズムガイドラインの運用	<ul style="list-style-type: none"> ガイドの質の維持・向上 ツアーの安全管理の向上 知床エコツアーのブランド化 適正な利用への誘導 	<ul style="list-style-type: none"> 普及用リーフレット作成、配布活用状況を検証するためのアンケート実施。 知床五湖冬季利用試行事業でのガイドラインを遵守することを義務とし、引率指導者を認定。 	<ul style="list-style-type: none"> 知床五湖冬季利用試行事業（しれとこ 100 平方メートル運動地の利用も追加。認定条件を斜里町観光協会会員に限定していたが、知床ガイド協議会会員にも拡大） 	<ul style="list-style-type: none"> 知床五湖冬季利用試行事業（試行事業最終年として、今後のあり方、利用ルール、認定要件、事業経費など検討） 	<五湖冬季利用> <ul style="list-style-type: none"> 試行事業で得られた結果をもとに、本格運用を開始。認証ガイドの条件を緩和し、地元ガイド以外にも対称範囲を広げる。事業経費については、利用料などの受益者負担を求め、不足分は知床斜里町観光協会が助成する。 利用条件の課題などについては、北海道土木現業所などの関係機関と、今後も協議を進め、現状に則した利用に導く。利用方法やルールについては、適宜見直しを行いながら事業運営を行う。 		
b) 自然ガイドのスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 自然ガイドの安全管理技術、自然に対する知識などの向上 	<ul style="list-style-type: none"> 海上保安の船上安全対策、人命救急講習会 羅臼・町民ガイド育成事業 	<ul style="list-style-type: none"> 海上保安の船上安全対策、人命救急講習会 羅臼・町民ガイド育成事業 	<ul style="list-style-type: none"> 海上保安の船上安全対策、人命救急講習会 羅臼・町民ガイド育成事業 	<ul style="list-style-type: none"> 知床で活動するガイドを対象にガイドの資質向上のための各種講習会(安全管理や知識向上のための)を検討し、実施する。受講対象は、ガイドだけではなく、町民へも呼びかける。 羅臼ガイドウィーク(仮称)と連携した町民ガイド育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 22 年度の講習会実施結果を踏まえ、各種講習会を企画検討し実施する。講習会の受講を認証制度及び広報方法と連動させる運用を検討する。 羅臼ガイドウィーク(仮称)と連携した町民ガイド育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 23 年度の講習会実施結果を踏まえ、各種講習会を企画検討し実施する。講習会の受講を認証制度及び広報方法と連動させる運用を実施する。 羅臼ガイドウィーク(仮称)から随時受け入れる体制にするための町民ガイド育成を目指す。
c) 地域発信型ツアーの企画・開発	<ul style="list-style-type: none"> 新たな観光資源を取り入れ、知床を広域的に利用利用の集中を分散 旅行会社ではなく地元提案の旅 地域が一体となった受け入れ体制の構築 地域の文化・産業の発信・理解 	産業プログラム(ウニ取りプログラム、スケソ見学、スケソ加工)	<ul style="list-style-type: none"> 産業プログラム(ウニ取りプログラム、スケソ見学・加工体験秋鮭荷揚げ見学、分宿) プロジェクトチーム(羅臼観光協会役員、協会員で構成される 10 名)による町内プログラムの商品化を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業プログラム(ウニ取りプログラム、スケソ見学・加工体験、秋鮭荷揚げ見学など既存プログラムの継続と内容の見直し) 	<ul style="list-style-type: none"> 羅臼ガイドウィーク(仮称)「基幹産業理解と宿泊者誘致のための体験プログラム」から「宿泊者のためのプログラム」へ移行する。開催日や催行人数を決めず、宿泊者対象として一定期間毎日開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 羅臼ガイドウィーク(仮称)を年数回実施し、宿泊者への「プラスアルファ」のサービスを目指す。また、宿泊者への告知を通じて、宿泊施設等との連携と受け入れ体制を構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 羅臼ガイドウィーク(仮称)が定着し、ガイド育成に結びつけながら、多面的に町の魅力を発信するために、「随時受け入れることのできる体験プログラムの提供」を目指す。

知床エコツーリズム推進実施計画 イメージ整理表（実施状況 H19~H21 および 実施計画 H22~H24）

エコツーリズム推進協議会作成（平成22年2月）

2. エコツーリズム推進のために、継続して取り組む項目

環境保全への貢献などエコツーリズムとして必須の取り組み、組織の運営など継続的に取り組むべき項目については、状況に応じて柔軟に目標の見直しをかけつつ、可能な範囲で進める。

	目的・将来目標	実施状況			実施計画		
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
d) 知床の自然保護活動の実施	・観光資源としての知床の自然環境の保全による持続的なエコツーリズムの展開	・遊歩道環境負荷モニタリング（知床五湖、羅臼湖などの歩道にて、土壌状態、周辺の植生、傾斜、侵食深度など基礎データをまとめた）			・五年ごとの環境負荷モニタリング調査を実施。H24年には前回調査から5年間の環境負荷について分析、提言する。		
e) 観光収入を環境保全に還元するシステム構築の検討	・観光利用と環境保全の両立 ・持続的な観光地経営		・五湖冬季利用試行事業におけるガイドの認定要件として100平方メートル運動への参加を義務化。	・五湖冬季利用試行事業において、参加料から100平方メートル運動への寄付	・自然保護を目的とする会員組織、知床エコツーリズムファンクラブ（仮称）導入を検討する。	・ファンクラブ（仮称）の設立に向けた様々な検証を行う。	・ファンクラブ（仮称）を設立する。
f) 実施体制・組織の整備	・地域で自立した実施体制の組織化 ・観光協会、ガイド協議会、知床財団が役割分担をしながら利用と保護を両立	・モデル事業中の流れを踏まえ、両町観光協会の事務局機能強化までの期間を知床財団がサポートする	・モデル事業中の流れを踏まえ、両町観光協会の事務局機能強化までの期間を知床財団がサポートする	・「知床エコツーリズム推進実施計画」の達成状況について評価を行う。	・エコツアー協議会のあり方に関する協議検討をする。 ・観光協会の事務局体制と4者の役割分担を整理する。	・エコツアー協議会としての専任事務局設置などの検討をする。	・エコツアー協議会組織体制に方向性と適切な結論を出す。
g) エコツーリズム推進に関わる独自財源の確保	・観光利用と環境保全の両立 ・エコツーリズム推進事業費の担保 ・アピールによって知床ブランド力の向上				・エコツアー協議会のあり方に関する協議検討をする上で、協議会としての収入を確保していく。	・上記を踏まえて、協議会としての収入を確保する。	・上記を踏まえて、協議会としての収入を確保する。

知床エコツーリズム推進実施計画 イメージ整理表（実施状況 H19~H21 および 実施計画 H22~H24）
 エコツーリズム推進協議会作成（平成 22 年 2 月）

3. 今後は他の事業と連携、あるいは他の事業において進める項目

観光振興に関する別事業において重複して取り組んできた項目については、主な取り組みの場を推進協議会事業以外の場に移し、連携を取りながら進める。

	目的・将来目標	実施状況			実施計画		
		平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
h) 滞在型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域への経済効果の向上 利用の集中を分散 自然環境の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 情報整備（宿泊施設一覧、観光スポット、体験プログラムの HP やファイルにして整備、関係機関との情報共有） 	<ul style="list-style-type: none"> 情報整備（前飲食店一覧を HP やファイルにして整備、関係機関との情報共有） 足湯の設置（本町活性化に向けて、滞留を促すための町並みづくり） 霧多布の先進地視察、関係者との意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 情報整備（英語版の整備） 足湯の設置（本町活性化に向けて、滞留を促すための町並みづくり） 	観光圏整備事業などと連携して各種取り組みを行う。 ・情報整備（広域情報と英語対応などの連泊者への情報を充実させる） ・地域への経済効果を常に検証しながら、滞在型観光を推進する。		
i) 統一窓口によるインフォメーション機能の構築	<ul style="list-style-type: none"> 窓口の一本化による利用者の利便性向上 ガイドライン・認証制度とリンクさせ、質の高いプログラムは料金が高くても売れるシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットの作成ツアーデスクの運営、地域のエコツーリズム素材の抽出、発信への情報提供及び協力について検討。 	協議会の HP のリニューアル（ http://www.shiretoko-eco.net ）	<ul style="list-style-type: none"> インフォメーションスタッフ交流会・案内所現場研修事業（より適切なご案内業務に携わるために、両町の体験プログラムに研修参加する） 	観光圏整備事業と連携して各種取り組みを行う。 ・エコツーリズムプログラム体験会実施（観光案内所、道の駅、観光協会、ホテルなどのスタッフを対象にした体験会により、情報交換や意見交換を図る） 各拠点のツアーデスクの充実と連携		
j) 既存観光地の利用のあり方に関する検討	<ul style="list-style-type: none"> 自然への負荷の軽減と利用者の満足度を満たす知床にふさわしい利用形態の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 遊歩道利用状況調査（知床五湖、フレペの滝、羅臼湖などの歩道の利用構造、ガイド利用の割合、滞留時間等について調査） 利用者意識調査（遊歩道利用者の混雑間や満足度等についての意識調査） 	<ul style="list-style-type: none"> 遊歩道利用状況調査（知床五湖、フレペの滝、羅臼湖などの歩道の利用構造、ガイド利用の割合、滞留時間等について調査） 	<ul style="list-style-type: none"> 知床五湖夏季利用についての検討（平成 23 年度より実施される知床五湖の新たな利用制度に対応） フットパスコースの検討（ウトロ高原からオシンコシン展望台を結ぶ旧道をフットパスコースとして利用するための整備などについて現地視察及び斜里町との協議を行う） 	観光圏整備事業などと連携した各種取り組みを行う。 ・新規および既存の観光資源に関する利用のあり方に関する検討 知床五湖の利用のコントロールに関連する各種対応 ・知床五湖利用のあり方協議会での検討・運営に参加		